

ライスボードのポズニャーブ米ニケーション

(株)ライスボード新潟総務部長・米ニケーター 豊永 有

米を通して人・自然・夢が交わり幸せを追求する。
数字や金額では表せない喜びを求めて、「lets米ニケーション！」

東京でサラリーマンをしていた時には「軽く一杯ひっかけるか」が日課となっていた。周りに田んぼしかないライスボードでは飲みに行く機会がまずない。ネオンサインがまったくない生活は肝臓の健康には最高だが、ちよつとつらい。

●視察者が後を立たず

「幸か不幸かライスボードには視察の希望者が後を絶たない。多いときには週に5団体、

ライスボードの冬は厳しい。JR長岡駅から車で20分の距離に位置するが別名「長岡の北海道」又は「新潟のシベリア」と呼ばれ秘境あつかいされている。初めて来社するお客様で無事にたどりつける確率は50%に満たない。手書きの詳細な地図を予め送付していても道を間違えう。地元タクシーでさえ間違つて対岸をうろついてしまう。大抵の場合は約束の時間に30分遅れが常識となっている。

●ブリザードで臨時休業

「命懸けライスボードMAP」を参照して頂きたい。ライスボードは大河・信濃川の河川敷にあり、舗装道の切れる場所から約2・5kmジャリ道を走った袋小路に隠れ砦のたたずまいだ。道一本隔れば地籍は中之島町になる。新潟の地図で長岡市のページを開いてもライスボードの脇川新田町は確認できない。2年続きで2月の初旬に「ブリザード」で会社までたどり着けず臨時休業を余儀なくされた。ジャリ道の第3カーブを過ぎた直線コーナーは信濃川と平行に走っており、川からの風をまともに車体の側面に受ける。

大型重機で除雪は朝晩の2回、そして、日中雪がつもれば直に除雪隊が出勤をしてくれる。しかし、強風が吹くと5分とたたず道が雪で埋もれて消えてしまう。冬場のわずか2・5kmの通勤が大自然のジオラマ化し命懸けのアドベンチャーの日々だ。

●立地にこだわらず

なぜ、冬場には最悪となる立地条件に会社を建てたのか。理由は2つある。

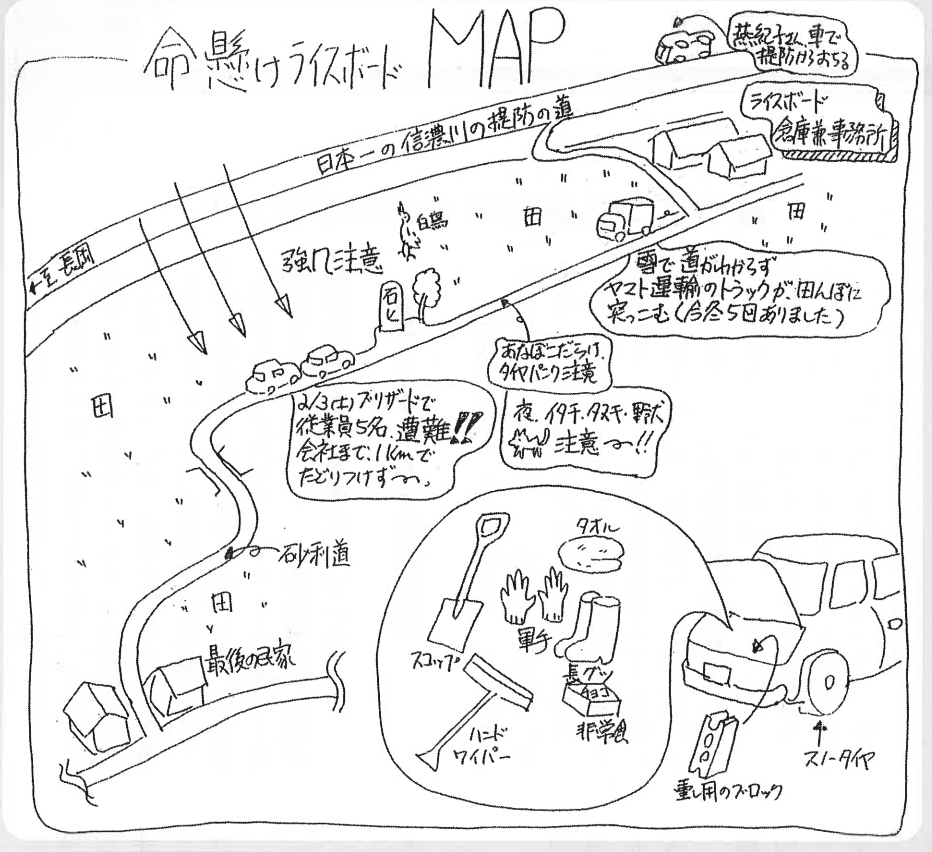
- ①長岡市は新潟県を中心
- ②通信販売主体の業務

ライスボードの生産者(株主)は新潟県下一円に散らばっている、中心に位置する長岡は都合がよい。関東自動車道のI・Cにはわずか10分たらずだ。首都圏へのアクセスを考えれば地の利がある。

また、通信販売はお客様が来店しない。地価の格安な河川敷でもまったく不都合がないのだ。従業員が通勤できて運送屋が集荷に来られる場所ならばどこでもいい。下手に街なかにあれば家賃は高いスペースは狭い。アフター5には都合がよいかもしれないが通信販売にはデメリットばかりだ。



信濃川の堤防から見たライスボード



1日に3団体来社されたこともある。ピーク時には10団体を越える月もあった。しかも、新潟県内の視察者よりも県外の方々が圧倒的に多い。私が覚えているだけで遠くは北海道から九州の鹿児島まで津々浦々からだ。

真冬に大型バスで来たが道の途中で雪に埋もれてしまい吹雪の中を30分以上もかけて歩いてきた視察団は忘れられない。「ああ八甲田山」さながらの世界だ。ライスポードに到着したときは皆さん氷ついていた。とんでもない立地を

体験することが冬のライスポード視察の第一歩なのだ。

視察の方を分類してみると3通りのタイプに分けられる。

- ①公務員・学者グループ
- ②業者・新規参入者・商人グループ
- ③JA・農家の視察団

公務員・学者グループは2〜3人の場合が殆どで多くて4人。礼儀正しく視察の日程調整もライスポードの都合を尊重してくれる。しかも、話をよく聞きノートを取り質問をぶつけてくる。視察の間もきっちり2時間で納めてくれる。後から礼状が送られるのもこのグループの特徴だ。しかし、内容的には杓子定規で逸脱せずあまりおもしろくはない。表面的な建前論議で終わる傾向にある。

業者・新規参入・商人グループも2〜3人の場合が殆どだ。このグループは行動が素早いのが最大の特徴だ。ライスポードの都合を考慮せず、僅かなあき時間でも平気でやって来る。そして、自分たちの話をべらべらまくしたてるのも、このグループに共通した特性だ。しかし、やたらと話はおもしろい。時間も2時間を大幅にオーバーしがちだ。視察者よりもこちらの方が勉強になってしまう。商売は生き物、商人の話は参考になる。

●観光気分視察団

視察者として一番受け入れたくないのがJA・農家の視察団だ。来社したすべての視察者とは言わない。しかし、大所帯の視察団になればなるほど始末に終えない場合が多い。特に農繁期が過ぎた頃と年明けのバス旅行の視察は要注意

だ。

今年の一月に某県からいらした団体にはあきれてしまった。約束の時間に大幅に遅れること2時間。午前中の視察が午後になれ込んだ。これだけでも迷惑千万だ。やっとたどり着いた責任者は赤ら顔でそれがついていない。バスから降りない人もいる。どうやら寝ているらしい。しかも、話の途中で頻繁にトイレに行くし便器はベトベトだ。

こんな視察団もいた。バスで到着するなり「ライスポードの資料をください」と頼まれた。トイレを使い倉庫をちよつと見て15分で風のように去ってしまった。旅館の宴会の時間に間に合いそうにないので1時間のところを大幅にカットしたようだ。

相手は観光気分視察かもしれないがつき合わされるこちらは仕事をしているのだ。あまりの非常識さには心底腹が立つ。

●視察料の大幅値上げ

昨年まで視察は無料で受け入れてきた。しかし、視察はきりががない。相手は一回の視察でも私たちは毎度同じことの繰り返しだ。視察の数が多いと費用がかさむので資料代として一人千円をいただくようにした。有料にすれば観光気分視察者が減ると単純に考えたからだ。結果はかえって逆効果になったかもしれない。「俺たちは金を払っているんだ」とあからさまな態度にでる視察者が現われた。

今年より思いきって視察料を3倍の一人三千円に値上げした。さすがに高すぎるとは思うが宴会の費用を圧迫する金額にした。観光気分視察の幹事様は安易に視察を組めないはずだ。

三千円いただいた視察者にはライスポードのオリジナル商品を視察料と同額分だけお土産と

冬のライスボードの情景
 (「長岡の北海道」、「新潟のシベリア」)

上) 冬は道路が雪に埋もれて消えることもしばしば。除雪車により何とか車道が確保されている。この道の奥に見えるのがライスボード
 中・下) 雪とつららに覆われたライスボード社屋



視察は菓子折りひとつ持ってノウ・ハウを盗みに来る行為だ。私も各地の多数の業種業者の方のノウ・ハウを菓子折りひとつで盗みにいった。その時に大切なのはお互いにギブ&テイクの関係を作れるかどうかだ。商人の話は情報の宝庫だからおもしろいのだ。
 農家の視察は「聞き飛ばしの視察」に陥りやすい。特にどこからか補助金

●ノウ・ハウはただではない

「サービスをしている」と変わるので精神衛生上もマルだ。説明をする担当者も同じ話をしゃべるのが苦痛だったが、仕事とあれば話は別だ。

して渡している。視察の話だけでは分からない部分を商品の形で提供し家で味わいながら家族と一緒に考えてもらう。ライスボードは食品を扱う会社なので「舌」で理解してもらうのが一番いい。
 ライスボードとしては売り上げ貢献になるし、「タダでやってやっつてやっつてんだ」という驕りから「お客様に

の出ている視察は最悪だ。実のある視察にしたければ、自分のサイフから支払うべきだろう。自分のためなのだから。
 視察料を払う事を躊躇しているようではノウ・ハウは盗めない。それが理解できなければただの田舎者だ。繰り返すがノウ・ハウはただではないのだ。



とよなが・ゆう／1964年2月東京都生まれ。東京農業大学卒。井関農機(株)に勤務後、94年4月、東京から新潟県見附市に移住。現在、新潟県の稲作経営者が集まって設立した(株)ライスボード新潟(新潟県長岡市脇川新田町字前島970-100 ☎0258-66-0070)の総務部長として商品企画・販売を担当。



ライスボードオリジナル商品群